

### ■ 史談会の今後の予定

新型コロナウイルスの大流行は、一旦はおさまり始めたかと思われましたが、再び猛威を振り始めた感があります。

白鷹町でも感染者が確認されましたが、本日現在で拡大は見られず一安心でした。皆様にはお健やかに過ごしのことと思います。

さて、史談会の活動はどうしようかと思案しておりましたが、予定を立てることはとても難しそうです。

第1に東京での新規感染者は100人以上になっています。また、いったん収まったかに見えていましたが、最近になって新しく感染が判明した県が全国の半分以上になっています。これからどうなるのか、予測できるものではありません。

第2に、国から「新しい生活様式」というものが提示され、それに基づいて様々な活動を行うことが求められています。基本的には、密閉、密集、密接の「三密」を避けるとか、ソーシャルディスタンスを守るなどを心がけた上で、さらに消毒やマスク着用などの感染防止策をとるなどが求められています。個人的にはできても、組織的に条件を満足するのは容易なことではありません。

以上のことを考慮し、事務局では会長さん、副会長さんに相談し、今年度の研修旅行、研修会を行わないことにいたしました。安全にバスで移動することや大勢の人に来ていただくことがこの状況ではできないと考えたのです。また、会誌『史談』第30号の発行は来年度に延期します。ほぼ活動停止になりますので、会費は集めません。

なお、このような大きな行事や活動はできな

いでおりますが、小規模の会である古文書会などは活動しております。また、個人的な学習会なども開催されていると聞いています。この機会に、どうぞそのような活動を充実させていただければ、事務局としても幸いです。

会報は今まで通りお届けしますので、学習会の広報や皆さんの調べたことがございましたら事務局の石井、守谷へお知らせいただければうれしく思います。

来年度は、今年度できない分さらに活発にしていきたいと思います。

### ■ 大日如来堂 欄間彫刻の修復開始

石井紀子

大字横田尻笠松の大日如来堂には、外壁に十二支の彫刻を、堂内に天女や龍などの欄間彫刻がある。木々に囲まれ人目につきにくい場所にあるが、平成30年の堂宇修繕よりその名前が聞かれるようになった。この十二支のうち子の彫刻が無くなったため新しく作れないかと、当時総代長だった金田茂也さんから相談された。

早速、東北芸術工科大学の文化財保存修復センターに連絡し、現場を見てもらうことになった。平成30年10月、笹岡直美先生の調査では脚立にのぼって彫刻を1点ずつ確認していった。すると、無くなったと思われていた戌の頭部や馬の脚が見つかった。また、堂内で彫刻を探していた金田さん、東西横田尻区長さん達によって子の彫刻が発見された。「大切な彫刻はどこ



かに保存されていると思った」と笹岡先生は仰った。新作は行わずにすんだが、欄間彫刻の部材が外れて床に並べられていたため、今度は欄間彫刻の調査、整理作業をしてもらうことになった。

令和元年5月、笹岡先生、柿田喜則先生や立体修復ゼミの学生さん達による調査が始まった。彫刻部材の元々あった位置を確認し、分類して段ボール箱に詰めて保管しやすいようにしていただいた。同時に奉納札と額の調査も行った。



その後、新型コロナウイルスによる自粛期間を挟んだが、今年2年6月に欄間彫刻を芸工大に運ぶための搬出作業が行われた。同時に、二人の学生さんが卒業研究に大日如来堂を選んでくれ、地域の方に聞き取り調査を行っていた。頑張っている様子が微笑ましい。

今後、欄間彫刻は汚れをクリーニングし、彩色がとれそうなところは剥落止めを行って部材をよい状態にしてから、部材同士の接着、規定材に接着して完了となる。今年度到天女、来年度に龍、令和4年度に十二支彫刻への調査、処置を行う予定である。横田尻の方々だけでなく、町内の皆さんにも注目していただきたいと思う。

最後に、奉納札・奉納品の調査結果を簡単にご報告する。調べた奉納札および奉納品（鯛口、机）は計39点。古い記録を挙げてみる。

- ・奉納札 宝暦2年(1752) 小屋部長平
- ・堂宇修理 寛政5年(1793)

大日如来堂の創建は不明だが、貞応3年(1222)に現在の地に移され、寛延4年(1751)に今のような三間四面の建物になったといわれている。小屋部と名前のある奉納札は寛延4年から1年後、堂宇修理は42年後のもので大日如来堂の来歴の証拠となる。

本尊については以下の奉納札が見つかった。

- ・本尊大日如来像厨子再興 文政4年(1821)
- ・本尊台座修理 昭和59年(1984)

本尊は宝暦3年(1753)に新たに造られたといわれており、像造時の奉納札があるかと期待していたが残念ながら札はなかった。台座修理とは、文化財調査時に台座の部材が落ちていたのをみつけた金田章さんが直したものだ。

- ・突鐘寄進面付 弘化4年(1847)
- ・突鐘寄進面付 昭和28年(1953)

「俊親日記」に寛政元年(1789)に鐘が鑄造されたと記録されており、弘化4年(1847)に鑄替した。この時、寄進した人々の名前を鐘に刻んでおり、この文字を控えた文書(大正3年制作)が橋本紘一さん宅にある。80貫文(約300kg)もあったという鐘は、昭和18年(1943)に金属供出に出され、十年後に新造された。



奉納札調査はお寺の歴史を確認できます。皆さんもぜひ調べてみてください。

## ■ まずは出し続けること

まずは出し続けることということで会報をお届けします。何とかがんばりましょう。(守谷)